

PAGES:将来の気候・環境変動理解のための近過去復元研究

PAGES (Past Global Changes) Paleoclimate reconstruction for better understanding future climate/environment changes

*横山 祐典¹、斎藤 文紀²、北里 洋³、原田 尚美⁴、阿部 彩子¹、多田 隆治⁸、入野 智久⁵、川村 賢二⁶、中塚 武⁷

*Yusuke Yokoyama¹, Yoshiki Saito², Hiroshi Kitazato³, Naomi Harada⁴, Ayako Abe¹, Ryuji Tada⁸, Tomohisa Irino⁵, Kenji Kawamura⁶, Takeshi Nakatsuka⁷

1. 東京大学 大気海洋研究所 高解像度環境解析研究センター、2. 島根大学 エスチュアリー研究センター、3. 東京海洋大学、4. 国立研究開発法人 海洋研究開発機構、5. 北海道大学 大学院地球環境科学院、6. 情報・システム研究機構 国立極地研究所、7. 総合地球環境学研究所、8. 東京大学 大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻

1. Atmosphere and Ocean Research Institute, University of Tokyo, 2. Estuary Research Center, Shimane University, 3. Tokyo University of Marine Science and Technology, 4. Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology, 5. Graduate School of Environmental Science, Hokkaido University, 6. National Institute of Polar Research, 7. Research Institute for Humanity and Nature, 8. Department of Earth and Planetary Science, Graduate School of Science, University of Tokyo

現在進行中の気候変化の将来予測をより正確に行うためには、過去の高時間分解能・高精度のデータを気候モデルの検証に利用することが有効であるとの認識は、IPCCなどの国際的な取組の中でも広く認められている。PAGESは将来の気候・環境変動理解のための近過去復元研究を行っており、日本もこれまで多くの貢献を果たしてきた。ここではその中の一部について紹介し、今後のPAGESの方向性などについて議論することとしたい。

キーワード：古気候、古海洋、PAGES

Keywords: Paleoclimate, Paleoceanography, PAGES